

RUBeC 演習を終えて

梶原 悠暉

Yuki KAJIHARA

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は2015年8月15日～2015年8月31日までの2週間、アメリカ合衆国カリフォルニア州のバークレー市にある Jodo Shinshu Center の中にある龍谷大学の北米拠点 Ryukoku University Berkeley Center にて、龍谷大学の海外で行う講義「RUBeC 演習 I」を受講し、国際会議において必要となる英語での要旨の書き方や発表に用いるプレゼンテーションの勉強、またホームステイ先の方と交流することで英語での会話の勉強をしました。

2. プログラムを受講した目的

今まで海外へ行ったことがなかったため、日本との文化の違いや生活の違いなどが分からず海外に対して大きな壁を感じていました。現在、グローバル化が言われているなかで海外に行くことに抵抗を感じ続けるわけにはいきません。なので、このプログラムを受講することで自身の持つ海外に対する壁を下げようと思いました。また、自身の英語スキルがどの程度なのか、自身の英語が現地にいる人にどの程度通じるのか確認したいと考え、このプログラムを受講しました。

3. 講義内容

現地での講義内容として、2週間のうち月、火、木、金には Jodo Shinshu Center にて午前中に英文要旨の書き方について講義を受け、午後からは英語でのプレゼンテーションについて講義を受けました。また、各週の水曜日にはカリフォルニア州サンタローザにある Keysight Technologies 社という企業と、龍谷大学と協定を結んでいるカリフォルニア大学デービス校（通称 UC Davis）を訪問しました。

3.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングでは、事前に作成した自身の研究に関する英文要旨を用いて、校正を中心に講義を受けました。文章の構成や冠詞、接続詞などに関する講義を受け、その日受けた講義に関して自身の要旨を修正し、現地の講師に見ていただき、英文要旨を校正しました。冠詞に関しての講義では、文章中で初めて出てきた名詞には「a」を名詞の前に付け、それ以降には「the」を付けることや、名詞の種類によってどの冠詞を付けるのか説明を受けました。その説明のなかで、名詞のなかでも「front」や「left」などの名詞は唯一のものを意味するので、文章中では初めて出てきても「the」を名詞の前に付けるということを教えてもいただき、私は冠詞についてあやふやなまま文章を書いていたので、大変勉強になりました。また文章の構成に関する講義では、文章中で短い文が続く場合には関係代名詞を用いて短い文章同士を繋げて長い文章にすることを説明していただき、簡単な問題を用いて、短い文章を繋げて長い文章に直す練習を行ないました。

3.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションでは、テクニカルライティングと同様に事前に作成したプレゼンテーション資料を用い、英語で発表を行なう上で効果的に相手が内容を理解できる発表方法について講義を受けました。この授業では、最初に質問があるときは講師の方が説明をしている途中でも質問をするよう私達に説明しました。日本では先生が説明している最中に質問がある場合、説明が終わった後や授業が終了した後に質問することが多いですが、アメリカでは説明している最中でも質問をするそうです。なぜなら、疑問に思うということはその授業を受けている生徒のなかの誰かが疑問に思っていることで、質問することで授業を受けている生徒全員の理解を助けることにつながるとアメリカでは考えられており、このことを説明していただき、日本との考え方の違

いを最初の講義で感じました。また、講義のなかで発表内容を相手に効果的に理解してもらうために重要なこととして、ジェスチャー、文章のどの単語を強調するのか、チャックなどを学び、授業のなかで自己紹介や趣味などを発表することでプレゼンテーションの練習を行ないました。講義のなかで「r」と「l」の発音の違いについても説明していただき、発音の練習を行なうときは積極的に意識して発音するのですが、発表練習を行なう際は疎かになってしまふことがありました。今後の課題として注意したいと思います。プログラムの終わりが近づくとつれ、話すこと以外にもプレゼンテーション資料の作り方についての講義を受けました。資料の作り方として「Yahoo」と「Google」のホームページを例に挙げ、それぞれのサイトの特徴を説明し、資料を作る際は1つのスライドに大量の情報を載せるのではなく1つの情報についてのみ載せることや、マウスをクリックすることで1つ1つの情報を表示していくことなどを学び、自身の資料に反映することで効果的に相手が理解することができるプレゼンテーション資料を完成させました。

3.3 企業訪問・大学訪問

1週間目の水曜は Keysight Technologies 社へ企業訪問させていただきました。この企業は世界有数の電子計測器メーカーであり、計測機器の製造から検査を全て自社で製造したものを用いて行なっています。また、製品を大量生産するのではなく1つ1つの精度を高くすることで高精度な測定が可能な機器を製造しています。社内を見学するなかでオフィスの様子を見させていただきましたが、日本のオフィスと比べ、机と机が仕切りで区切られており部屋のようになっていました。このことから個人の成果を

求めるアメリカの気質のようなものを感じました。

2週目の水曜にはカリフォルニア州のデービス市にある UC Davis へ大学訪問させていただきました。この大学では起業したい学生に対する支援制度が存在しており、日本の大学にはあまりないこの制度に衝撃を受けました。また広大なキャンパスを有しているため学生は移動に自転車を用いていました。自転車で移動するためキャンパス内には自転車のための考慮が多くされていました。この大学訪問により日本にはない新鮮さを感じました。

4. おわりに

今回のプログラムの参加が初めて海外に行く機会となり、最初は日本と海外を比較してどのように異なるのか全く理解しておらず、日本以外の国へ行くことに大きな壁を感じていましたが、ホームステイ先の方や現地の講師と英語でやり取りを行なうことにより、英語での会話や日本以外の国へ行くことに対するハードルが下がったと感じました。この RUBeC 演習を通して、英文要旨を書くスキルや英語でのプレゼンテーションスキルが参加前と比べて改善されたように思います。



プレゼン発表の様子